

川本町 中央地区の支援状況について

地域の現状

川本町中央地区は、物流の要衝であり、邑智郡の官公庁が立地する条件のもと栄えてきた商店街のある弓市エリアとその周辺に点在する農村部で構成されている。かつては、中央地区はもとより、多くの町民、近隣町村からも弓市の商店やサービスを利用し、各種事業所が住民の生活を支えてきた。近年では、通勤・買い物圏の拡大、因原エリアへの大型量販店の進出、人口減少・高齢化などを背景に、地域運営が難しくなっている。

地域の課題

弓市エリアでは、経済活動とそれを支えあう商店会・商工会が地域運営の中心であり、自治や共助の基本単位である自治会の機能が脆弱・未発達で、かつその状態で構成員の高齢化が急速に進んでいる。弓市エリア以外の農村部は、共助機能はあるが、集落の小規模高齢化が進み自治運営が難しくなっている。広範囲の区域割りである中央地区はもとより、北地区、西地区にとっても、生活の基盤となる利便施設が弓市エリアに集中しているため、全町的なエリアを意識した地域運営の仕組みづくり（小さな拠点づくり）が必要である。

支援の内容（支援の対象）

1) 小さな拠点づくりを担う中核組織の育成

- ①まちごとキャンパスネット（地域おこし協力隊OBGで結成）
- ②子育てサポートサークル「えっとね」
- ③だけえ川本（地元小学生の地元体験）
- ④川本暮らし情報センター（移住支援）
 - ・「集いの場づくり」に向けた企画運営支援
 - ・地域マネージャーとしての人材育成

支援の成果

- ・各グループ、各メンバーそれぞれが抱えるミッションを年間活動計画として整理した。活動の見える化により、個々の活動の重ね合わせや、協働の実態づくりにつながった。
- ・うち1名は、地域マネージャーとして当法人に入会し、WSや会議運営手法を中心とした専門技術を研修中（次年度も継続意向）。

2) 自治会・連合自治会の共助体制づくり

- 町内全31自治会のヒアリング座談会を実施
- 弓市エリアでは、商工会・商店会、弓市魅力化検討委員会で協議しながら、共助の仕組みづくりの融合を図る。

- ・「弓市エリア」の重要性、感情論でも町の中心、生活機能集積地としての弓市エリアでは、全町の視点から町の拠点づくりを推進していく事の共通認識を得た。

3) ワーキング会議・コーディネート会議の企画・運営

- 官民協働の仕組み・体制づくり・対話の場づくり支援
 - ・1)の①～③の活動団体を中心に構成する実働・実践のための「ワーキング会議（WG）」の企画・運営。
 - ・官民協働の「コーディネート会議（Co）」の企画・運営。

- ・WG会議の定例化を実現（来年度も継続意向）。
- ・Co会議は補佐会ベースで始めたが、テーマ別に担当と、少人数で進めより有益な会議体制ができた。
- ・弓市エリアのグランドデザインを立案。（MAPづくり）

4) 公民館区をまたいだ連携関係の構築

- 「三原の郷未来塾」と、1)各団体との連携、協働の場づくり
- 「たすけあい川本」の設立支援（役場との協議会議の運営）

- ・「三原の郷未来塾」と、ワーキング会議に参画している各団体との連携を深め、協働の場面を作ることができた。

残る課題と展開の方向性

- ・中核団体の運営資金確保に向けた取り組みの展開と、各種活動の「見える化」、情報発信への取組（ミニコミ誌やSNSの活用など）
- ・子育てや健康、社会体育など「テーマ型」と、共同作業や助け合い等の「地縁型」での二方向からのチームづくりと活動おこし
- ・全町域3公民館の性格や位置づけの整理と、弓市エリアを町の拠点とした小さな拠点づくりのプロセスプランニング
- ・ワーキンググループ会議とコーディネートチーム会議の一元化：官民協働プロジェクト会議の推進（体制の最適化）

総括

地域運営において、S30年の5町村合併、小中学校の統合など歴史的な背景に起因し、公民館事業や、各種行政サービスと区域設定がミスマッチになっているエリアのあることが確認された。全自治会へのヒアリング座談会を実施できたことが、一番大きな成果であり、3公民館区を包括した、弓市エリアを中心拠点とする小さな拠点づくりに向けた方向性が導き出された。次のステップとして、今年度の成果を見える化し、「川本町らしい小さな拠点づくり」に向けたロードマップの検討、継続的な会議運営と実践活動の展開が求められる。